

現場代理人と技術者の兼任について

A. 請負金額 00万円未~~満~~(建築一式は 000万円未~~満~~)※専任の主任技術者を要しない工事

| 本工事の選任 | 現場代理人 | 主任・監理技術者 | 営業所の専任技術者 | 今後の工事 | | | | | | | | | | |
|----------|-------|-------------|-----------|---|-----------------------|----|---|-----------|-----------------------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | | | | 0万円未 満 (建築一式は 000万円未 満) (専任の主任技術者を要しない工事) | | | 00万円以上(建築一式は 000万円以上) (専任の主任技術者を要する工事) | | | | | | | |
| | | | | 現場代理人 | 主任・監理技術者 | 兼務 | 現場代理人 | 主任・監理技術者 | 兼務 | | | | | |
| 現場代理人 | | 兼務可 | 兼務不可 | 条件付 ※① | 主任・監理技術者 条件付 ※① | 兼務 | 条件付 ※① | 条件付 ※③ | 主任・監理技術者 条件付 ※③ | 兼務 | 条件付 ※③ | | | |
| 主任・監理技術者 | 兼務可 | 条件付 ※④で可 | 条件付 ※① | | | | | | | | | 条件付 ※③ | 条件付 ※② | 条件付 ※③ |
| 兼務の場合 | | | 条件付 ※① | | | | | | | | | | 条件付 ※③ | |

B. 請負金額 00万円以上(建築一式は 000万円以上)※専任の主任技術者を要する工事

| 本工事の選任 | 現場代理人 | 主任・監理技術者 | 営業所の専任技術者 | 今後の工事 | | | | | | | | | |
|----------|-------|----------|-----------|---|-----------------------|----|---|-----------|-----------------------|----|-----------|-----------|-----------|
| | | | | 0万円未 満 (建築一式は 000万円未 満) (専任の主任技術者を要しない工事) | | | 4000万円以上(建築一式は8000万円以上) (専任の主任技術者を要する工事) | | | | | | |
| | | | | 現場代理人 | 主任・監理技術者 | 兼務 | 現場代理人 | 主任・監理技術者 | 兼務 | | | | |
| 現場代理人 | | 兼務可 | 兼務不可 | 条件付 ※③ | 主任・監理技術者 条件付 ※③ | 兼務 | 条件付 ※③ | 条件付 ※③ | 主任・監理技術者 条件付 ※③ | 兼務 | 条件付 ※③ | | |
| 主任・監理技術者 | 兼務可 | | 条件付 ※② | | | | | | | | | 条件付 ※② | 条件付 ※③ |
| 兼務の場合 | | | 条件付 ※③ | | | | | | | | | 条件付 ※③ | |

※① 「現場代理人の常駐義務に関する適切な運用について」(平成23年11月14日付け国土建第161号)通達

「1. 技術者の専任が必要とされない程度の規模・内容」、「2. 常に携帯電話等で連絡可能」、「3. 3件以内」、「4. 市内全域」、「5. 工事現場に速やかに向かうことができる。」の5つを満たせば常駐義務を要しないこととなる。

※②より、『工作物に一体性又は連続性が認められる工事』又は『施工にあたり相互に調整を要する工事』かつ「相互の間隔が10km程度」の場合には1の条件はクリアされる。

※② 「建設工事の技術者の専任等に係る取扱いについて」(平成26年2月3日付け国土建第272号)通達

『工作物に一体性又は連続性が認められる工事』又は『施工にあたり相互に調整を要する工事』かつ「相互の間隔が10km程度」の場合、2件程度の兼務が可能となる。

※③(①&②)「技術者の専任が必要とされる規模・内容の工事」の現場代理人の常駐義務について

「1. 『工作物に一体性又は連続性が認められる工事』又は『施工にあたり相互に調整を要する工事』かつ「相互の間隔が10km程度」の場合、」

「2. 常に携帯電話等で連絡可能」、「3. 2件程度」の3つを満たせば可能となる。

※④ 「営業所における専任の技術者の取扱いについて」(平成15年4月21日付け国総建第18号)通達

専任を要する場合を除き、同一市内で、当該営業所との間で常時連絡をとれる体制にある場合は兼務が可能となる。(現場代理人を除く。)